

己こ

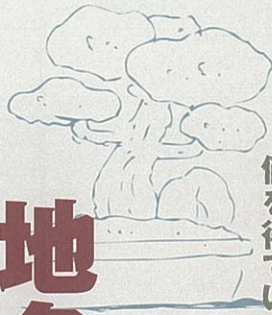
斐い

己斐

土地の人が神功皇后へ鯉を献上したという伝説にもとづいて「鯉」と呼んでいたのが、「己はあやに美しい」という意味の「己斐」に変わったといわれます。「鯉」は広島城を「鯉城」、広島のプロ野球チームを「カープ」と呼ぶ由来になっています。己斐は植木の町として有名。水はけのよい土地で、江戸時代から盆栽、庭木などが栽培されてきました。松の盆栽は特に優れていると高い評価を得ています。

地名のルーツをたずねてみれば…

古ふる江え



昔、新宮神社の西は入り江になっていて、古い港があったことから「古江」と呼ばれました。入り江の奥にあたる少し上の丘から、港と関係があったと思われる奈良時代の役所跡が発見されています。また、この役所跡から「すずり」も発見され、奈良時代にはすでに文字の文化がこの地域にもあったとされています。明治・大正期にはピワやイチジクなどの栽培が盛んに行われ、宅地化で生産は減りましたが、現在も秋には甘くおいしいイチジクが実ります。

古江



草く

津つ



昔、草津は軍(いくさ)の港につかわれたので「軍津(いくさつ)」と呼ばれ、それが「草津」になったといわれます。中世の港は村の西側にあつて草津城は水軍城として、いろいろと重要な役割を果たしていました。江戸時代の文献によると、草津の力キは美味であつたとされ、また、大阪に販路を開き、一時的ではあるが力キ船営業の独占を持つなどし、広島力キを有名にしました。今でもその伝統は守り継がれています。

草津

井い口のくち

井口



草津と五日市の間古い集落で、かつて、井口から西は断崖の海岸線で、峠越えをするか、引き潮を待つて海岸線を通るかのいずれかで、どちらにしても交通の難所でした。埋め立てなどにより、現在の海岸線は様変わりしましたが、その中にあつて、井口明神の小己斐島は、当時の様子を今に残しています。平清盛が厳島神社を建てる際、引き潮を利用して材木を送り出したところとも伝えられています。